（第6回近畿学校保健学会）

第6回日本学校保健学会総会

抄録集 I　演説要旨

日本学校保健学会　昭和34年11月 神戸

（近畿学校保健学会と共催）

一　般　演　説

討議会関連演題には，その演題名の後に討議会番号を時計文字で記した．
○印は演者，誌 は誌上発表を示す．

第一会場 ………………………………………………………………………… (127)

司会　東大 教育学部　小栗一好 教授

101 中学校生徒の三宅式性格調査表による地域別比較　(神戸医大 衛生)　○伊藤安信　山田好文　谷口憲弘　戸田嘉秋
(神戸医大 解剖)　堀井健吉

102 高校生に実施せるＹＧ検査成績について（第２報）
(金沢大 教育学部 衛生)　村上賢三　○徳山美智子

103 精神活動面より見た高校生徒の問題点　(佐賀工高)　大渡満男

104 虚弱児童の自律神経緊張状態　(大阪学芸大 衛生)　○吉矢元彦
(宝塚 精常学園)　別所彰

105 神経質における素質と環境との問題　(九州厚生年金病院 小児科)　高木俊一郎

106 学童における永久歯萠出と知能の関係について（第２報）
(大阪学芸大 衛生)　冨士貞吉　上杉日出登　○辻隆子　海藤史朗

司会　鳥取大 医学部　村江通之 教授

107 疲労よりみた学童の健康管理　特に教課内スポーツと修学旅行に就いて
(北大 医学部 衛生)　○人見健造　高桑栄松

108 学習の生体負担について　(東京学芸大)　黒田芳夫

誌109 二部授業と課題学習時の生体反応　(長崎大 学芸学部 保健)　川津哲郎
(長崎 山里小学校)　山口弘

110 定時制高校生の学習と疲労について　(Ⅴ)
(北大 医学部 衛生)　○阿部茂　高桑栄松

誌111 定時制高校生の疲労度の測定　綜合的疲労判定法に関する一つの試み　(Ⅴ)
(神戸大 教育学部 教育衛生)　佐守信男
(阪大 医学部 衛生)　砂田毅　東義夫

112 高等学校生徒の生活時間について　(金沢大 教育学部 衛生)　桐元武一

113 都市小学生の生活時間に関する一考察　(東大 教育学部 健康教育)　○古田貞夫　中島孝夫　高城義太郎

114 中学生・高校生の月経と生活能率（第２報）裁縫科学習について
(福島大 学芸学部 保健体育)　○須藤春一
(青森 沢田小学校)　中村豊子

115 基礎体温曲線の年令的差異　(福島大 学芸学部 保健体育)　○須藤春一
(福島 醸芳小学校)　坂田澄江

司会　金沢大 教育学部　村上賢三 教授

116 学童の災害に関する研究　(順天堂大 医学部 公衆衛生)　岡安延寿

6-01

117 学校安全対策に関する研究予報 (公衆衛生院 衛生看護) 永野貞 ○野沢園子 林益代
(お茶の水大) 平井信義
(大正大学 文学部) 柏熊岬二
(東大 医学部 衛生看護) 田中恒男
(公衆衛生院 女性小児衛生) 中野英一

118 学校における欠席管理図のこころみ (東大 医学部 衛生看護) ○戸沢澄美子 田中恒男
(東京 烏山小学校) 北川みえ

119 健康教育の学習領域に関する調査研究 (II)
(東大 教育学部 健康教育) 詫間晋平

120 アメリカにおける学校保健の最近の傾向 (神戸医大) 金子敏輔

121 教員養成コースにおける保健学の体系について (I)
(実践女子大) 福田邦三

誌122 全国の教員養成大学あるいは学部における教職専門課程での保健教育に関する実態調査 (I)
(神戸大 教育学部 教育衛生) 白髪素子 杉内倶子 矢部捷治 佐守信男

誌123 養護教諭の資格獲得過程についての実態調査からの一考察 (IV)
(神戸大 教育学部 教育衛生) 山出康正 堀内礼介 佐守信男

第 二 会 場 ………………………………………………………………………… (146)

司会 北大 医学部 高桑栄松 教授

201 学校環境衛生基礎調査 (第1報) 夏季における教室環境について (III)
(神戸大 教育学部 教育衛生) 佐守信男 武田真太郎 岡嶋佳子 吉田隆之 森嘉代子 ○杉内倶子 田中嗣男 横尾能範

202 運動の継続負荷が発育並びに死の攻撃に及ぼす影響に関する動物実験的研究
(神戸大 教育学部 教育衛生) ○森嘉代子 武田真太郎 佐守信男

203 身体発育と運動能力の関連性に関する研究
(名大 医学部 公衆衛生・知多保健所) 近藤尚

204 中学生の体力の群別推移状況 (金沢大 教育学部 衛生) 岡崎康夫

205 都市小学校児童の扁平足について (東北大 医学部 衛生) ○加藤勝雄 川上吉昭

誌206 学童の姿勢に関する研究(1) (久留米大 医学部 衛生) 吉嗣国男
(福岡 大濠中学校) 諸富節
(国学院大) 諸富嘉男

207 机腰掛の適正配給に関する図上企画 (滋賀 草津小中学校) 山田進二

司会 東北大 医学部 高橋英次 教授

208 明治・大正・昭和期における学童の身体発育過程に関する研究
(久留米大 医学部 衛生) ○安倍弘毅 矢野邦夫

209 佐世保市生徒児童の家庭職業別にみた身体発育過程について
(久留米大 医学部 衛生) 古川利春

210 東京都内私立一学園における小学校から大学までの年令別体重及び身長の年間増加について
（立教学院診療所） 奥野 徹 ○江口篤寿

211 高等学校における保健管理上の問題点 特に進学と体重減少について
（金沢大 教育学部 附属高校） 横井藤太郎 ○幸山彰一 亀田富子 平野扶治子 橋羽裕規男 徳山美智子

212 所謂健康優良児の体位及び骨年令について （名古屋市教委） 田辺栄一

司会 千葉大 医学部 柳沢利喜雄 教授

213 学童期における栄養標尺としての上膊囲と皮厚について
（大阪学芸大 生理） ○今井英夫 船橋 馨

214 某宗教大学々生の身体に関する生理学的考察 その1 ヘモグロビンレベルとその生活
（順天堂大 医学部 公衆衛生） 小谷新太郎 千葉裕典 ○内田和子 見藤隆子 野原三洋子 平野英与

215 幼児の嫌食調査と発育との関係 （長崎大 学芸学部 保健） 川津哲郎

216 学校給食と体格の向上について （富山大 教育学部） 山淵利文

217 学校寄宿舎における給食について （千葉大 文理学部 腐敗研） ○藤原喜久夫 長谷川三重子

218 三重県下K小学校における給食による赤痢集団発生について
（名大 医学部 公衆衛生） ○伊藤 章 堀田 之
（四日市保健所） 森田 穰

219 土岐市立妻木校下山寺地区簡易水道による斑状歯発生状況の衛生学的観察
（岐阜医大 衛生） ○沢田郁夫 永田捷一

第三会場 …………………………………………………………………… (161)

司会 名大 医学部 水野 宏 助教授

301 結核の経気感染に関する動物実験的研究
（神戸大 教育学部 教育衛生） 佐守信男 武田真太郎 ○岡嶋佳子
（国療 刀根山病院） 三木勝治 大島一馬

302 学童の結核に関する衛生常識テスト （関西電力病院 小児科） 三谷隼雄

303 結核管理におけるＩＮＨ使用経験 （福岡 警固小学校） 荒井正雄 三宅重徳 伊東祐俊 坂本 馨 細山田 馨 ○山本久雄

304 小児喘息の集団治療 （九大 医学部 小児科） 遠城寺宗徳 ○門屋昭一郎 山下 功

305 日本人の呼吸型について （東大 医学部 衛生看護） ○石河利寛 山川 純

司会 九大 医学部 遠城寺 宗徳 教授

306 山形県教員循環器検診成績について (VI)
（山形県教委） 杉浦守邦

307 児童生徒の心臓機能障害対策 （大阪 桃山学院） 寺岡政代

308 心臓の相対発育に関するレ線学的研究 （名大 医学部 公衆衛生） 乾 俊雄

6-03

309 東京都の一高等学校生徒における血圧調査と尿検査について（蛋白と糖）
（東京 広尾高校） 松田小風子 ○永石千代子

310 学校集団検尿に関する一考察 （慈恵医大 公衆衛生） ○川城信生 山村行夫

311 学童聴力選別検査法の検討 （岡大 医学部 耳鼻科） 高原滋夫 ○東川清彦 伏見直哉 田村実

誌312 低周直角脈波電流治療にさいして観察された聾児の聴覚と治療効果
（神戸大 教育学部 教育衛生） 武田真太郎
（和歌山医大 衛生） 角田貞男

司会 福島大 学芸学部 須藤春一 教授

313 鈎虫卵保有学童の血液像について （鹿児島大 教育学部） 羽生純夫 ○大永政人

314 宮崎県北郷町児童生徒の鈎虫駆除成績 （久留米大 医学部 衛生） 佐藤義人

315 保健教育の立場から調査した稲生地区学童の寄生虫卵保有状況
（高知大 教育学部 保健） ○鈴江美智子 柳川志津 井上清子

316 新庄川と日下川流域の学童と寄生虫の問題について
（高知大 教育学部 保健） ○佐野広光 田中潤作

317 地域を対象とする寄生虫予防の実際 （福井県教委） 提腰利雄

318 学校におけるはたけ（所謂顔面白癬）の対策とその効果
（愛知 西野町小学校） 加藤一郎 中沢宏 高原照枝

319 最近三年間収容児童の実態について
（堺市教委） 斎藤真文
（堺 養護学校） 深瀬孝一 伊井野喜重子 真砂松子
（大阪市大 家政学部） ○山本勝朗

320 昨年一年間の保健室利用状況 （堺 養護学校） ○真砂松子 伊井野喜重子

誌321 サラシ粉の溶解について （金沢 泉中学校） 徳久和夫

あとがき …………………………………………………… (179)

演説注意事項

1. 一般演説は1題8分間，追加討論は 2分間以内とします．演題が多いので演説者各位には時間を厳守願います．
2. 図表はすべてライカ版（35mm）のスライド（なるべく陽画）にお願いしておりましたが，各演説者はスライドを演説予定時刻30分前までに，それぞれの会場の受付に提出し，配置などについて係員に御指示下さい．
3. 演説順序は都合により変更することがあります．

6-04

Pfizer 米国チャールスファイザー社提携製品

トラコーマ等の眼疾患に定評ある

テラマイシン眼軟膏

ポリミキシンB含有オキシテトラサイクリン

テラマイシンは極めて多くの感染症の治療予防に定評ある広範囲抗生物質です

ポリミキシンBはグラム陰性菌と緑膿菌に卓効のある抗生物質で、この2種を眼科用として最も効果的に配合したのがテラマイシン眼軟膏です

適応症

トラコーマ　急性・慢性の結膜炎

眼瞼炎　涙嚢炎　手術前後の感染予防

角膜潰瘍に併発する感染症等

☆深部感染症の治療には局所投与と共にテラマイシン内服剤を併用して下さい

包装　3.5gチューブ入

他にテラマイシンのみの眼軟膏があります

（文献進呈）

台糖ファイザー株式会社

東京都中央区日本橋堀留町一の六

第一製薬
東京・日本橋

精がつく薬

副腎・肝臓強化

パント錠

副腎に効くパント錠は
精がつきます。疲れがとれます。

疲労・中年過ぎの精力、体力の衰え
二日酔・肌あれ・アレルギー性疾患

20錠・50錠・100錠

新発売

病巣へ移行率の高い

持続性新サルファ剤

メリアン

スルファフェナゾール

高い治療効果

メリアンは2〜3㎎%程度の低い血中濃度で優れた効果を示します

優れた組織移行性

メリアンの組織移行率は著しく高く、しかもこの高い組織内濃度は持続性です

治療効果の持続性

メリアンは少量投与で長時間効果が続きます

高度の安全性

他の持続性サルファ剤に比し排泄がよく……蓄積の心配がないので安全に使用できます

（純末・錠剤）

説明書贈呈

大阪市道修町　大日本製薬株式会社

6-05　中座

第 一 会 場

101 中学校生徒の三宅式性格調査票による地域別比較

（神戸医大 衛生）○伊藤安信　山田好文　谷口憲弘　戸田嘉秋
（神戸医大 解剖）　堀井健吉

兵庫県下某農村中学校，神戸市内某中学校および阪神間某中学校の３年生生徒に三宅式自己内省による性格調査票による調査を行ない．あわせて各受持ち教師により作成された性行票を資料として比較検討を行なった所，農村と都市においては著しい差が認められた．然し神戸市内と阪神間においては差が認められなかった．すなわち性格に何等かの異常を呈すると思われるものは農村生徒に比して都市生徒には非常に多い．これらのうち性格の多少の逸脱を示すものは両者に大差はないが変質者，虚無者などとみられるものが都市生徒には多い．性格の逸脱を示すもの及び変質者，虚無者などとみられるものはその性行票からも同様な傾向をうかがうことが出来る．

本調査法は成人のために作られたものでありまだ精神発育の完成されない中学生にこれを直ちに適用するのはどうかと思われる点もあるが，更に検討することにより生徒の精神衛生指導面に大いに意義あるものとなりうる．

102 高校生に実施せるＹＧ検査成績について（第二報）

（金沢大 教育学部 衛生）　村上　賢三
（金沢大 教育学部 専攻科）○徳山美智子

昨年演者等はＹＧ検査を石川県下の性格を異にする三つの高等学校について実施したが，その結果とくに問題の生徒を多く見出したＣ校をとり上げ，今年も継続調査を試みた結果について報告する．

Ｃ校は石川県下においても特殊なる性格を有する学校であり，一応学力の高い生徒が数多く集っており，大学進学率も非常によく，また生徒のほとんどが進学を志望している学校である．このＣ校における同一の被験者に対し，高学年になるに従って如何なる傾向を示すかについて，昨年に引続き今年も調査し，その継続的な調査から同一人の人格特性の変化およびその傾向を観察したのである．

学年別人格特性の傾向をみるに，一年生より二，三年生の方が全体的に神経質となっており，高学年になるになるに従って情緒的に不安定となり，客観性に欠けていて，情緒に変化の多い学年となることがうかがえる．また思考的に

6-127

2

104　虚弱児童の自律神経緊張状態

（大阪学芸大 衛生）○吉矢　元彦
（宝塚 精常学園）　別所　　彰

昭和33年8月1日，宝塚市花屋敷の精常学園に収容された夏季修練会の児童生徒数10名のうち，典形的な虚弱児童20名について，血液成分（血清Ca量，リンパ球百分率の２項目）および Wenger 法（唾液分泌量，脈圧，最小血圧，呼吸数，舌下温度，脈数の６項目）を測定した.

血清 Ca 量は平均11.345 mg/dl で，８月の健康児童49名の平均10.46mg/dl より多く，リンパ球百分率は41%で，健康児童の42.5%とほとんど変らない. Ca とLの規正偏差の和をとると，20名中副交感神経緊張が19名，交感神経緊張が１名，中間型はなかった.

Wenger 試験では，20名の平均が,脈数67.6,3分間唾液を思いきり出させた量が1.9cc，脈圧54，最小血圧45，呼吸数19.3，舌下温度37.3°C で，因子得点は+0.83となって，小学６年生200名の平均−0.04，σ 0.74とくらべて副交感緊張である．この方法では副交感緊張が13名，交感緊張が１名，中間型が６名であった.

このように,虚弱児童は貧血その他の要因もあるが,血液成分法でもWenger法でも副交感緊張に傾いているので，精常学園で８月１日から20日間．４時30分起床で錬成を主として行なっている方法がよいと思う.

105　神経質における素質と環境との問題

（九州厚生年金病院 小児科）高木　俊一郎

神経質という言葉は一般によく用いられるが，その概念ははっきりしていない．私はここで物理的・生理的・精神的刺戟に対する心理反応が表情・社会行動・習癖あるいは身体反応などに現われやすい傾向，すなわち精神反応過敏性をいわゆる神経質と呼ぶ．諸家が神経質の特徴として挙げている項目 105項目を統計的に処理して50項目を選び，いわゆる神経質傾向調査表と名づけた．この表を３才の幼児より小学校３年までの学童約2,500名に用い，神経質傾向の強い群と弱い群とを比較した.

1）物理的環境（住居の場所，来客の多寡，騒音等）は子供の神経質傾向にあまり関係がない.

2）両親の年令，本人の同胞中の順位などは著明な影響はないが，祖母の存否は祖父の場合より関係が深い.

6-129

3) 過敏性体質といわゆる神経質との間には0.6以上の相関関係が見られた.

4) 両親の性格, 躾の態度など親子関係の心理的面は非常に大きな影響のあることを知った. 父の性格では感情にむらがある, うるさく干渉するなどに, 母親では, りくつっぽい, 物事に敏感であるに1%以下の危険率で有意の差が認められた. 躾の態度としては民主合理型・放任型・厳格型・溺愛型などでおのおのそれらの傾向が強い時にはいずれも神経質傾向の強い子供が80%前後に現われる. ことにその影響は母親の場合に大きい. しかし民主合理的躾の場合にも40%近くの神経質児がみられる. このことは神経質傾向は過敏性体質傾向の場合と同じくある程度は生理的反応の現われであり, 素質的な影響が大きいことを物語っている. 従ってその傾向の有無よりも, 程度の強弱が問題とさるべきであり, それとともに, 環境の影響が論ぜられるべきものであると考える.

106 学童に於ける永久歯萠出と知能の関係に就いて (第二報)

(大阪学芸大 衛生) 冨士 貞吉 上杉日出登○辻 隆子 海藤 史朗

既に, われわれは学童を対象に, 永久歯萠出数を中心に, 性別, I. Q., 満年令, 学業成績などと相関関係を求めて報告した.

今回は, 調査項目の各々につき, 更に詳細に検討を加え, 永久歯萠出については, ただ単に萠出数のみを算定するのみならず, 萠出値なるものを設け, 萠出の度合を考慮に入れて調査した. また, 対象となる学童についても, 体格, 栄養等を考慮に入れて, 標本としての質的均一化をはかり, 調査の対象とした.

かくの如くにして得た調査項目について, 推計学的な処理を施し, 一定の結果を得たので報告する.

107 疲労より見た学童の健康管理
特に教課内スポーツと修学旅行に就いて

(北大 医学部 衛生) ○人見健造 高桑栄松

学童の健康管理に関しては戦後とくに注目されるようになったが, 各種スポーツを通じて学童の体位向上も著しく, 発育基準において戦前のそれを凌駕しつつある. しかしながら一方運動量の過大より惹起される疲労の蓄積は健康管理上の関心事となってきたので, 小学校教課内スポーツの実施時及び修学旅行において学童の運動強度と疲労との関係を検討し, 学童の健康管理の参考に資すべく本研究を行なった.

調査の対象としては札幌市内H小学校五年生男女各5名を選出し, スキー・

6-130

誌111　定時制高校生の疲労度の測定　（V）
綜合的疲労判定法に関する一つの試み

（神戸大 教育学部 教育衛生）佐守　信男
（阪大医学部 衛生）砂田　毅　　東　義夫

昼は勤労に従事し，夜勉学する定時制高等学校の生徒の疲労状況を調査し，その度合に応じて適切な健康管理をすることの必要なのはもちろんであるが，この種の疲労を科学的にとらえることが困難なこともまた周知のところである．

私たちは，この疲労判定を，定時制と全日制の高等学校生徒の疲労度を比較検討することから始めた．この疲労度を判定するのに，生理学的，生化学的，心理学的方法より最も簡単にして意義があると思われるものを各々1つずつ，即ち，皮膚空間閾法・唾液のpHによるザンブリニー氏法・朝比奈氏の内観法の変法，の3方法を選んだ．測定した結果，それらの平均値の差をt－分布により検定したが5％の有意水準で，何れの方法においても，定時制の生徒が，全日制の生徒に比べて，より疲労している状態を示した．

さらに，その疲労が生理的なものかあるいは蓄積されてゆくものかをみるために，定時制の生徒の朝の疲労度を同じようにして測定した結果，一般に著明に回復することがわかった．しかし，全日制の生徒の平均値よりもなお高いので，回復しないものを追究した結果，約40％の生徒が蓄積疲労の状態にあると思われることを認めた．

この疲労が軽快しない原因を，それらの生徒の職種別・睡眠時間など生活状態よりχ^2検定によって調べたところ，昼間，事務系統に従事する生徒が疲労の回復が悪く，睡眠時間にはあまり関係がないが寝つきの悪いものは蓄積疲労しやすく，また，昼食と帰校後深更にとる夕食との間に何ら食事をしない生徒も疲労の回復が遅れることを認めた．

112　高等学校生徒の生活時間について

（金沢大 教育学部 衛生）桐元　武一

石川県K市内1全日制高等学校生徒男女，それぞれ，153人，104人，同N市内1定時制高等学校生徒男128人について連続1週間の生活時間調査を行ない，興味ある成績をえたのでここに報告する．

I．調査対象

全日制高等学校生徒：男153人（1,2,3各学年，それぞれ，85，40，28人），女104人（1,2,3各学年，それぞれ32，29，43人）．

6-134

高くなっていることがわかる．要求の程度は異なっていても，重点の置き方について生徒と父母の間には大きな類似性がある．一方これを14の領域別に検討してみると，栄養，精神衛生，家庭や地域社会の健康等への要求度に関して三者の間に特色があって内部構造の相違がうかがわれる．また各項目に対する意見の頻度から見た関心の度合にも変化がみられる．総括した意見を調べると生活教育としての健康教育への要求が高いことが判明した．さらにわれわれは学習領域構成上の要因となる要素的領域として，医学知識的情報源，衛生統計的情報源，生活分析的情報源の三つを抽出し考察したのでその知見を報告する．（調査に際しての東大附属，鈴木郁子氏の助力を感謝する．）

120　アメリカにおける学校保健の最近の傾向

（神戸医大）金子　敏輔

学校保健のあり方，教育の普及，施設の近代化と改善については従来からアメリカの学校保健の発達と指導にまつことが多い，戦後民主的教育が受入れられ学校保健の理念が基本的にアメリカの制度を多く取入れて今日の発展を見た．

筆者はそこで学校保健の動向の先端を行くアメリカの学校保健がテーンエジャーの最近の共通的スピード化した成長の動きと社会性の動きと相まって，どのような傾向にあるか顕著な活動を調査して見た．各種報告から分析してまとめたものを学校保健研究者に報告し参考資料を供するものである．

その範囲は学校保健管理，プログラム，給食，学校環境，養護婦活動，保健教育問題と技術，精神薄弱児，高等学校生徒のセックス問題，テレビジョン保健教育等である．

121　教員養成コースにおける保健学の体系について　(I)

（実践女子大）福田　邦三

現在，保健科教師の養成が行なわれているコースには３種類ある：(1)体育科教師の養成と組合わせて養成するもの，(2)家庭科教師の養成と組合わせて行うもの，(3)体育，家庭のどちらとも関係のないもの．これらを理念，カリキュラム，教員組織などの面から見て，一般的に認められる欠点は，傍系的であり自主性が欠けているという点である．すなわち(i)中心的目標が保健以外の体育，家庭，看護等におかれている．(ii)運営の中心をなす教員組織が欠けているか，または不十分である．(iii)保健学の理念の確立がない．(iv)そのコースの専任教授の後継者をその類の研究室の研修で養成するという組織にはなっていない．

いままで大学の保健コースの内容や配列に関する検討が不十分であった．現在認められる欠点は：(1)免許法の最低線に近い保健教育にとどまっている大学が少なくない．(2)基礎保健学の教育が不足している大学がある．(3)疾病論の教育が確立されていない．

これに対する本格的な対策は大学の保健学教育基準専門課程70単位を設定し，保健学科においてこれを実施するにある．これよりも実行しやすい拙速案は家政学科または体育学科の大学コースの中に保健学専攻コースを設け，これを主専攻として取る者の必修として40単位程度を要求することである．それらの場合，カリキュラム分野の構成および必修単位の配分の一例を次に示す．

分　野	比率（%）		必修単位配分の一例 保健学科		保健学専攻	
基礎保健学（保健学概論2単位を含む）	30～40		26		16	
疾病論	15～20	約50%	14	36	6	20
公衆保健学	15～20		12		8	
保育看護学	15～25		10		6	
学校保健	5～10		6		4	
計	100%		70単位		40単位	

誌122　全国の教員養成大学あるいは学部における教職専門課程での保健教育に関する実態調査　（I）

（神戸大 教育学部 教育衛生）白髪素子　杉内倶子　矢部捷治　佐守信男

課程・教科の如何を問わず，およそ教員になるすべての学生は，保健教育に関する科目を，ちょうど教育原理や教育心理学を学ぶように，学ぶべきものである，と私たちは考えている．ところが実際に，教員養成大学あるいは学部において，保健教育はどのような位置で考えられ，実施されているのか，それを知る一つの試みとして，私たちは，全国の該当46大学の学生自治会あるいは教育実践研究会などの学生を通じて，次のアンケートによる実態調査を行なった．

おもな調査事項を次の3点においた．即ち，(1)　教職専門科目として保健教育がどのように実施されているか．(2)　過去5年間のその実施状況．(3)　教職専門科目としての保健教育についての意見

回答に接したのは，宮崎・富山・金沢・山形・静岡・奈良・佐賀・山口・信州・福井・滋賀・埼玉・大阪・群馬・秋田・福島・千葉・新潟・京都・鳥取・神戸（順序不同）の21大学で，回収率は45%であったが，次に，この調査結果の要旨を報告する．

6-143

1）教職専門課程中に，必修科目として全学生に実施している大学は僅かに1大学，神戸大学教育学部のみであった．他に，選択必修科目として宮崎大学学芸学部，自由選択科目として富山大学教育学部が実施しているのみであり，残りの18大学においては，保健教育は，教職専門課程中には，教科教育法以外の形としては実施されていなかった．

2）本調査は過去5年間にさかのぼっただけではあったが，この期間中に，保健教育が教職専門課程でとりあげられたと報告のあったのは，前記3大学以外にはなかった．

3）教員養成大学あるいは学部において保健教育がもっと重視されるべきであるという意見は，15大学から述べられており，現状のままでよいというのが，6大学においてあった．現状より軽く扱かってよいという意見はなかった．もっと重視されるべきであるという意見の中で，教員になるすべての学生は保健教育を受けるべきであると特記しているのが，6大学においてあった．

なお，保健と体育と混同しての記載が多数見られたのは，教員養成大学あるいは学部における保健教育の一実態を示していると考えられる．

ちなみに，本調査に参加された全国21大学の報告者（学生）の課程別は，幼小課程8，中．高課程8，記載なし5，であった．

誌123　養護教諭の資格獲得過程についての実態調査からの一考察　（IV）

（神戸大 教育学部 教育衛生）山田康正　堀内礼介　佐守信男

養護教員の任務が，主として養護を中心としての保健管理とはいえ，本教員が，現在，学校における保健に関する唯一の常勤の専門家であることを考えるとき，養護教員をめぐる諸問題は，現場の学校保健をすすめる上での一つの重要課題である．そこで，私たちは，まず，現職の養護教員の資格獲得過程を中心としての実態調査を始めた．

調査は，大阪府と兵庫県から始めたが，今回は，大阪府29地区中21地区の123名の養護教員からアンケートの結果の大要について述べる．被調査養護教員の年令構成は，30才代が最も多く49名で，次で，40才代，20才代，50才代の順であった．

養護教員の免許資格では，2級が68名で多く，他は1級並びに仮免及び該当事項に記載のなかったものである．また，123名中看護婦の資格をもっていたものは 107名であり，他はこの資格をもっていなかった．学歴でみると，旧制女学校卒が54名，高等小学校卒が32名で，他に，短大，新制高等学校，新制中

6-146

学校，旧師範卒など，多種類の学歴があった．さらに，この 123名中，保健科の２級免許をもっているものが22名あった．

これらのことから単に養護教員というも，その資格獲得過程は種々雑多であり，したがってまた，養護教員としての実力においても多種多様であることが窺われた．もちろん，その実力は，各人の熱意や努力，研究によって学歴その他により云々すべきでない場面もあるが，矢張り現在の養護教員の資質をなべて向上させる大きな措置が望まれる．この場合，望まれる一つは，養護教員は，看護婦の資格を是非もっていてほしいということである．いざというときに，にじみでるであろう本格的な看護技術は，なければならない養護教員の本質的な技術である，と考えられるからである．

私たちは，新らしく養成される養護教員は，まず看護婦であること．それも独立勤務をするのであるから優れた看護婦であること．即ち，新制高校卒・3ヶ年以上の養成所をでたもののうちでも優れた看護婦で，それに引き続いてさらに教員養成大学あるいは学部で１年以上の養護教員としての課程をおえたものであるべきであると考えている．できればこの大学での在学中に，幼少課程か保健科の免許を得る単位を修得すること．このことは，養護教員の身分上の諸問題の解決とともに，学校側にも，養護教員採用の積極性を与えるはずである．またこのことは，現在当面している保健教育を含めての学校保健の種々な隘路を打開する一つの方途でもある．

小学校　保健教育の教材解説
荷見秋次郎著
低・中学年向の指導には、最初の健康生活の指導の項が参考になるし、以後姿勢・病気の予防・傷害防止・自分の健康状態について等、高学年に必要な教材資料を十分に提供し、子どもたちの実生活に欠かせない健康生活の内容を改訂教育課程に準じて平易に解説し、現場の教師の要望にこたえている。
A５　340頁　¥580
株式会社　牧書店
東京 新宿 揚場町・振替 東京196483

＜荷見秋次郎著＞
健康教育の指導細案　¥500
日常生活における保健の管理と指導　¥220
中学校保健の学習指導　¥350
佐藤正　体育心理　¥450
体育運動における心理的特質をとらえ発達段階における体育指導の重点を詳述し、体育学習、精神衛生及び体育評価に言及した
亀村五郎　考える体育　¥250
木田文夫　波多野完治　小学生の心とからだ　¥220

6-145

第二会場

201　学校環境衛生基礎調査　(III)

第1報　夏季における教室環境について

(神戸大 教育学部 教育衛生) 佐守　信男　武田真太郎　岡嶋　佳子
吉田　隆之　森　嘉代子○杉内　俱子
田中　嗣男　横尾　能範

学習をすすめてゆく場としての学校環境衛生条件がどうあるかということを，まず，私たちの学舎並びに神戸市内の小学校での調査から始めた．調査は，神戸大学6学舎全域並びに神戸市内6小学校の講義あるいは授業中の教室を主な対象として178の測定点について行なわれた．調査時期をまず気象条件のはげしい夏季及び冬季を選んだ．今回の報告は夏季のものである．

調査項目としては，温熱条件（気湿・気流・感覚温度），空気汚染（炭酸ガス濃度・空中生菌密度），騒音・採光照明，を選んだ．

温熱条件では，気温，最高 31°C・最低 25.1°C，気湿はすべての測定点で70%以上，気流は 0.1m/sec 前後が大部分の測定点の値であった．感覚温度は，丹羽氏の日本人における夏季の快感帯の上限 73°E. T. をどの測定点においてもはるかに上まわった．

炭酸ガス濃度においては，一般に窓が開放されていたのにもかかわらず，恕限度0.1%に近い測定点を多数認めた．小学校の教室の学童1人当りの有効気積は平均 3.3m^3 であった．

試みに，小学校の授業中の教室の窓を30分間閉鎖してその前後の環境条件を調べたところ，炭酸ガス濃度では 0.04%のものが恕限度 0.1%をこえ0.15%になり，気温・気湿が上昇し，気流が著しく低下するのを認め，学習に支障をきたす環境条件を示した．

空中生菌密度では，空気清浄といわれる神戸大学六甲台，住吉，姫路の各学舎では，空気 1m^3 当り2,000以下の測定点が殆んどであったが，御影，西代，松野の各学舎では殆んどの測定点で 2,000 以上であった．神戸市内小学校の教室での測定点の殆んども 2,000 以上であり，立作業などを行なっている教室あるいは床の清潔状態の悪い教室では，空気 1m^3 当り10,000以上の空中生菌密度を示した．

騒音については，暗騒音が 50 phon 以下という静かなところとして神戸大学六甲台，住吉，姫路の3学舎があげられるが，他の3学舎並びに神戸市内の6

6-146

小学校で暗騒音はすべて70phonに近かった．とくに小学校での教室内騒音は街頭騒音よりも大きい値を示し，教師の話し声が全く聞きとれない測定点を認めた例もあった．

照明　採光では，机上面や黒板面の照度が100Luxに満たない測定点を多数認めた．人工照明を行なっている場合でも，晴雨にかかわらず，100Luxに満たない測定点があった．なお，一教室の机上面の照度差が2,000Lux以上ある教室が全被調査教室の1/3にも達した．

本調査の実施に当り，神戸大学保健委員会並びに神戸市教育委員会の示された御協力に対して感謝する．

202　運動の連続負荷が発育並びに死の攻撃に及ぼす影響に関する動物実験的研究

（神戸大 教育学部 教育衛生）　○森　嘉代子　武田真太郎　佐守　信男

成長期に運動（筋肉労働と考えてもいい）を連続的に負荷することが死の攻撃に対して，どのような影響を与えるかということを，動物実験によって観察した．

動物はスイス系マウスNa-2株，生後4週間の雄を用いた．これらの動物を1日に1分間8回転の円盤上を1時間走らせる群（走行距離670m）と，1分間6回転の円盤上を20分間走らせる群（走行距離170m）と，運動を負荷しない対照群の3群に分けた．運動負荷は隔日に行ない4週間続けた後に，3群の動物に同じような死の攻撃を行なった．

死の攻撃は，横浜医大の大川氏の報告による体力検定法（日本衛生学雑誌13巻5号所載）に準じて行なった．氏は大型バケツに水を入れ，それに動物を数匹ずつ投じて溺死するまでに要する時間を計測し，これを遊泳時間と仮称し全身機能総合的体力を判定する指針とした．私たちは，前記3群の，この遊泳時間の差の比較を試みた．

上記の運動負荷を行なった2群の体重増加率は，ともに対照群の体重増加率よりも小であった．とくに，8回転の運動負荷群がもつとも体重の増加が小であった．

死の攻撃に用いた水槽は内径39cm，水の深さは8cmであって水温は18°C～20°Cに保った．その時の外気温は27°Cであった．各群4匹ずつ計12匹を同時にこの水槽に投じてそれぞれの遊泳時間を測定した．遊泳時間のもっとも長かった群は対照群であり，もっとも短かかった群は，1分間8回転の運動負荷群，即ち，もっとも大きい運動負荷を4週間隔日に与えた群であった．

6-147

212 所謂健康優良児の体位及び骨年令について

（名古屋市教委） 田辺 栄一

名古屋市内小中学校の健康優良児男子104名，女子105名について，身長体重胸囲および坐高を測定し，同一被検者の左手部を6×6版レントゲン間接撮影フィルムによって，骨年令を判定した.

1） 優良児の体位は，市平均に比較して著しく大で，大体3～4才上位の値を示した.

2） 骨年令は，大部分が歴年令より進み，身体成熟度も早いと考えられる.

3） 以上の成績よりいわゆる健康優良児は，発育の早いものすなわち早熟児ということができる.

213 学童期における栄養標尺としての上膊囲と皮厚について

（大阪学芸大 生理） ○今井 英夫 船橋 馨

栄養状態を客観的に評価するために皮下脂肪の蓄積，消耗について栄養状態を標示することが一般に用いられている. 体脂肪は腹部皮下脂肪と平行し，腹部において最もよく発育を示していることから Oeder はとくに腹部皮下脂肪をもって栄養標尺としている.

他方八木は脂肪組織のみならず，筋肉等を含めた身体軟部の発達状態をもって栄養状態を定義した. 即ち上膊は脂肪の好沈着部位であり，かつまた筋肉が豊富であることの理由によって上膊囲をもって栄養標尺とみなすことを提唱している. しかるに上膊囲はまた筋力測定の標尺ともなっているので，いずれに重点をおくべきかという問題も当然考えられる.

よってわれわれは筋電図法を応用して皮下脂肪の測定法を考案し，男子学生について，身長，体重，胸囲，坐高，握力，上膊囲，その他上膊，腹部皮厚を測定し，それらの測度と上膊囲との相関度を検べた結果，上膊囲は栄養状態を示す標尺としてよりもむしろ筋の発育状態を示す標尺とすべきであることを確め，第2回本会総会において発表した.

今回は学童期を対照として検べた結果，この時期においては上膊囲は筋の発育を示す握力，背筋力， Achlomka 指数とはなんら相関関係がなく，むしろ上膊皮厚，腹部皮厚とにやや相関性の傾向のあることが認められた. 即ちこの時期において八木のいう考えと相似する. 従って上膊囲を栄養標尺として用いるには年令的に考慮すべきであろう.

6-154

第三会場

301 結核の経気感染に関する動物実験的研究

(神戸大 教育学部 教育衛生) 佐守信男　武田真太郎　○岡嶋佳子
(国療 刀根山病院) 三木勝治　大島一馬

結核死亡率が，近年，顕著に低下したといえども，結核症による死亡は，学校生活の時期における疾患の死亡としてはまだ第一に考えねばならない状態にある．また，その罹患する時期，更に，結核症の社会病としての位置のなお重要であることを考えるとき，私たち学校保健の研究分野としての結核問題の意義は，なお，はなはだ重要である．

今，問題を結核の感染経路にしぼってみる．結核の感染経路としては，一般に経気感染が信じられているが，そうであるとしても，呼吸とともに吸入した結核菌が，体内でどのような運命をたどり，結核症に進展してゆくかという実験的研究は少ない．

そこで，私たちはこの目的の実験に，ラジオアイソトープ P^{32} で標識した Mycobacterium phlei を使って種々な実験を展開してきたのであるが，今回は，主として，人型結核菌 (H_{37} Rv) が単個菌の形で浮遊する空気を作り，この空気を呼吸した動物の肺臓における生菌数の週を追っての変動を観察した実験について報告する．

1) 実験方法：無毒菌・弱毒菌・強毒菌として Mycobacterium phlei・B. C. G.・H_{37}Rv の３種の菌を選び，これらによる３つの実験を組立てた．それぞれの菌の単個菌浮遊空気の流れを特殊な装置によって作り，この空気の生菌密度をグルタミン酸ソーダーフィルター法により測定しつつ，この流れの中に動物を入れて呼吸させた後，肺臓内の生菌数の増減を週を追って観察した．肺臓の生菌数は，肺臓を glass-homogenizer により均等液化しこの均等液を培養する法によって計数した．動物はスイス系マウス Na-2株 生後６週間の雄を用いた．

2) 実験成績：含菌空気を呼吸した直後の肺臓における菌の入り方は，３種の菌の Aerosol の何れの場合も，先きに報告した実験成績と一致して，呼吸した空気中の全生菌数の約20%であった．

肺臓内の生菌数の週を追っての増減は，(1) Mycobacterium phlei の場合は，直後10^5の生菌数が，１週間後には10^2ないし10^1となり，２週後にはすでに生菌を認めなかった．(2) B. C. G. の場合は，直後10^3の生菌数を計測したが，

6-161

1, 2, 3週間後にいたるも10^3の生菌数を維持した. (3) H_{37} Rv の場合は，直後10^3の生菌数が1週間後では10^4，2週間後では10^5，3週間後では10^6となり著しく増加した.

302　学童の結核に関する衛生常識テスト

（関電病院 小児科）三谷　隼雄

学校保健は究極のところ，養育としての学校保健事業と陶冶としての保健教育とに要約されよう.

新しい教育基本法・学校教育法が施行されて10数年を経過して，保健に関する教育は教科として保健体育理科とかなり豊富に授けられているはずであるのに，知行合一の実が挙っているとはいえない面もあるようである.

学校保健法が昨年制定・施行されたゆえんの一端もまたここに存しよう.

学校保健事業の最も大きな事項たる学童の結核予防も，毎学年始めにおける集団検診，その結果の処理が全国画一に実施されてすでに20年近い今日，われわれ臨床医が学童の健康診断・疾病治療に当って，保健教育の成果まだしの感を深くするのは，結核に関する問診に際してである.

結核管理の如何なる階梯にその子弟があるか，即ちツベルクリン反応はいつどうであったか，B. C. G. は，その結果は，等々については毎学期末交附される通知表に明記されてあるはずなるにかかわらず，正しい認識を持っていない保護者の多いのに一驚させられるのである.

私はかって管理したことのある京都市第一・第二・第三・第四錦林校における学童衛生常識テスト（ことに結核に関して）の成績について述べ，二三の考察を試みたいと思う.

303　学童結核管理に於けるＩＮＨ使用経験

（福岡 警固小学校）荒井正雄　三宅重徳　伊東裕俊　坂本　馨
細山田馨　○山本久雄

現行の結核予防法には，既感染者の管理の問題がとり上げられていない. 自然感染と推定される「ツ」反応陽性者にたいして，1年1回法Ｘ線検査が無所見であるというただそれだけの理由で，単なる養護を加えるのみで，何等積極的な方法を講じないのは，私どもの賛成できないところである. 私どもは量，副作用等の関係から INH を使用して結核発病防止を企てた.

1954年5月全学童中「ツ」反応発赤40mm 以上で，硬結，水泡，壊死等を伴い，自然陽性と推定される者420名を選び，同数の二群に分ち，1群を対照と

6-162

形県教育委員会では県立学校教員2500名について同一方法による検査を行なう目的で，教育庁職員により全員の血圧測定，心音聴診，X線間接撮影による心像検査を行なった．血圧測定はリバ・ロッチ型血圧計を用い坐位，15分間安静後，3回以上の測定により安定した値をとることにし，最大血圧150mm 水銀柱以上を高血圧とした．

県内地域別教員の高血圧者出現率は県北部に高いがこれは県民の脳出血死亡率の高い地域に一致している．また年令別には40才未満の高血圧出現率は男で5％以下であるが40才で18％，50才台で約40％に達し，40才以上の成績を農民（山口県および埼玉県）のそれとくらべるにほとんど差がなく，従来いわれてきた職業による差はほとんど認められなかった．

年令別最大血圧の平均値は表の通りで

年令区分	20～	25～	30～	35～	40～	45～	50～	55～
男	126.8	125.8	126.5	127.7	132.2	135.1	143.5	150.1
女	116.8	118.2	119.9	122.7	125.5	130.3	132.2	160.5

全国平均値とくらべて常に高い値を示し男子で平均 5mm高く，若年および高年では10mmの差となっている．

年令別分布曲線を画くと20才台，40才台，50才台ともモードは常に 125mm程度にあるが，年令の進むに従って山はたいらとなって高血圧の方にのび，180mm以上の所に今一つの山を作る．

山形県ではこの結果にもとずき 150mm以上の高血圧者に対し二次検査として尿蛋白検査，眼底血管検査，心電図検査等を実施する計画であり次回報告の予定．

307　児童生徒の心臓機能障害対策

（大阪 桃山学院）寺岡　政代

1.緒論　リウマチ性心疾患は成人病でなく，子供の中にある病気で10～19才の子供の約8％が心疾患に犯されつつある．

しかも無自覚のうちに経過し予後は想像以上に不良で死亡率は高く平均年令は35才である．従来小児の心疾患は不治の病とされて学校でも要養護対策のみであった．私たちは最近の死亡統計又は研究発表等により此の病気は結核と同等以上の予防対策が必要であることを痛感し，大阪府養護教員部会では33年度より心疾患の予防対策と取組むことを申合せ目下実態把握に各自努力している．

6-165

2. 調査対象　桃山学院高等学校生徒 2,108名（高1，高2）で，1府3県の 293中学校より進学した男子のみであり昭和34年6月調査した.

3. 調査方法　第1次検診，調査用紙（既往歴，主訴）及び間接撮影6×6フィルムを参考に専門医による聴診で心臓部の雑音あるもの影像に異常を認める者を選出.

第2次検診，心電図・血圧・検尿・聴診によって判定し，要療養・要注意・要観察，放任差支なしに分類して校医の生活指導を受く.

4. 調査の結果　第1次検診で選出された者69名 327%を第2次検診（精密検診）によって心臓障害者48名2.27%を発見，校医の診察により全員中学校において，既に罹病しており，本検査によって初めて心疾患であることを知る者⅔以上であった.

調査終了の小学校との比較（別表）によると本校の罹病率が高く，これによっても中学校時代の心疾患予防対策の必要性が痛感された.

5. 健康管理　判定区分により家庭と連絡を密にして生活指導を実施，体育面は校医の指示のもとにＡＢＣＤの4段階に分け（Ａは実技を全然課せず）指導. 感染源除去に重点を置く.

心疾患を認めた者

校　　名		先天性	後天性
豊中市小学校	小	0.297%	0.264%
布施市小学校	小	0.213%	0.235%
桃　山　学　院	高	0.233%	2.04%

308　心臓の相対発育に関するレ線学的研究

（名大 医学部 公衆衛生）乾　俊雄

私は，水野の相対発育理論，すなわち「発育しつつある個体の任意の二部分の比は，連続的に変化する. 従って，測定値の比をもって示された指数，および係数をもって，体格あるいは栄養状態を判定することはできない. また，ただ一つの正常型を設定することもできない.」という考え方に従って，発育に伴う心臓形態の変化につき，層別無作為抽出によって選び出した，岐阜県下，小，中，高等学校児童生徒総計1685名（男子827名，女子858名）を対象としてレ線学的に，その意義を追求して，次の結論をえた.

1) 心臓は，その縦径，横径とも年令とともに大きくなるが，ことに11才～15才において，その発育が最も著しく，この傾向は，とくに横径において著明

6-166

定期健康診断時における集団検尿は，極めて有意義であることを知った．

311　学童聴力撰別検査法の検討

（岡大 医学部 耳鼻科）高原滋夫　○東川清彦　伏見直哉　田村　実

昭和34年度から学童難聴の摘発方法が文部省学校保健法令に明文化されたので，之を機として全国画一的に同じ方法の撰別検査が実施される運びとなった．したがってこの方法による聴力の撰別検査法は漸く緒についた許りであって，実施面・測定成績を検討してみると尚多々問題とする点が残されているのではないかと思う．

岡大耳鼻科教室では Better Hearing Clinic（耳の保健所）における研究の一環として，既に学童聴力の撰別検査法を多角度から研究してきたが，今回は特に岡山市内全児童及び郊外の児童３万余人の撰別検査を各学校の養護教師が Audiometer を用いて測定したので，その成績を吾々は集計し，その結果，a）学校差（環境差就中騒音の影響）によって測定結果が変動しなかったか，b）教師の検査技術の如何によって測定結果が変動しなかったか，c）各養護教師は低学年児童の撰別検査を如何に扱ったか，特に測定不能，あるいは測定結果に信頼性のない場合の処理はどうしたか，d）Audiometer の特性の変動が検査成績に影響を及ぼしたことはなかったか，という諸点について検討することにした．

次に学校で撰別検査をおこなって最終的に専門医が難聴の診断を下した時のこれら難聴児に対する扱いを法令には指示していないようである．特に治療効果の期待できるものはさておき，治療効果の期待ができなくて中等度難聴を示す児童，あるいは近い将来漸次聴力低下の可能性ある児童を発見した場合には何らかの対策方法があって然るべきである．そこで吾々は岡山市内小学校児童３万人の中からかかる児童の相当数存在することを発見し得たので，目下特殊教育（仮称難聴学級）を施すべく具体策を講じつつある処である．

以上聴力撰別検査法の検討をおこなうと共に，摘発された難聴児童の After Care についても言及する予定である．

誌312　低周直角脈波電流による難聴治療にさいして観察された聾児の聴覚と治療効果

（神大 教育学部 教育衛生）武田真太郎
（和歌山医大 衛生）　角田　貞男

さきに武田は電話交換要員の神経性難聴耳20例に外耳道より直接低周波電流

6-168

を通流し，ほぼ満足すべき治療効果をえた．すなわち electric excitability を示標としての聴神経機能の恢復が全例に認められ，audiometry では著効30%（うち20%は normal thresholdに復帰），やや有効40%で，残余のものでは無効であった．この結果は聴神経の機能低下が比較的軽度で，器質的変化が強くないと思われる難聴耳（physiological index a/b^2 0.1前後）に対するものである．そこでわれわれは昭和32年以来本法の治療能力の限界を知るため，高度難聴耳40例に本法を試みているが，これら対象耳中に聾学校の児童が7名含まれていたので，これら後天性聾児の成績のみを集計検討してみた．

1） 被検耳14例の治療前平均聴力はすべて60db 以上で，うち2例は音響に対し全く反応がなかった．とくに高音域の聴取が困難で，8k∾ 音に対しては全例とも反応がない．さきに角田らが同年代の正常耳について調べた最高可聴周波数はすべて16k∾以上であつた．

2） 聴神経 excitability は比較的よく，a/b^2 が0.46～0.12で，音響に全く反応のなかった2例のみが0.007 および 0.008で強い低下を示していた．

3） 被検耳中10例に低周波電流治療を試みた結果，excitabity は全例が好転した．とくに機能低下の著明であった2例は正常 index になり，平均聴力も30db以下に恢復した．しかし残余の例の気導聴力には効果を認めない．従って，聾児の聴力障碍には聴神経の機能低下のみでなく他の感音器官の変性が強く関与していると考えられ，聴神経の機能低下のみによる聴力障碍であれば，障碍が高度でも，本法による治療効果が期待しうるであろう．

4） なお．全対象耳中に45才のメニエル症候群の例があったが，本法により難聴のみでなく，頑固な眩暈発作を容易に全治せしめえた．

313　鉤虫卵保有学童の血液像について

（鹿児島大 教育学部）羽生　純夫　○大永　政人

最近．寄生虫卵保有者の数はかなり急激に減少しつつあるが，これについて学校保健の果している役割は決して少なくないものと思われる．学童の寄生虫卵保有者に関しては，おびただしい数の報告があるのに対して，寄生虫が学童の身体や生活に与えている障害の程度についてはほとんどその発表を見ない．われわれは寄生虫の疫学的調査とあわせて，それによる健康障害について調査を進めている．

今回は鹿児島県の数校の小学校について，児童の鉤虫卵保有者の血液像……赤血球および白血球数，白血球像，血色素量……および心肺係数等について調査したものについて報告する．

6-169

い．本校は清潔指導の手繋りとして，この対策を実践したので結果を報告する．

1．本校児童の疾患者数（昭和34年4月）

学　年	検査人員	患 者 数	%
1	40	30	75.0
2	60	49	81.7
3	58	48	82.8
4	57	51	89.5
5	82	69	84.1
6	69	47	71.0
計	366	296	80.9
男	180	154	71.0
女	186	142	80.9

2．対策及び実施事項

イ）生活指導　○身体の清潔指導（顔にかび）○服装容儀の清潔指導（頭髪スモック）

ロ）医療対策　○薬剤サルチルサン，ワセリン軟膏・ビタドール軟膏　○塗布　授業日2回　休日1回

3．効果

イ）治癒の効果（演説時に述べる）

ロ）その他の効果　○生活指導面の効果　○その他の疾病に対する効果

4．結論

(1) 集団治療によって容易に効果をあげることができる．

(2) 集団治療る行なうことによって，児童の生活指導の面，特に清潔指導について，児童と家庭の理解と協力を得るようになった．

319　最近3年間収容児童の実態について

（堺市教委）斉藤　真文
（堺養護校）深瀬孝一　伊井野喜重子　真砂松子
（大阪市大 家政学部）○山本勝朗

堺市立養護学校は本年4月で開校3週年を迎える．この間本校に収容された身体虚弱児童について，その実態を調査した結果について報告する．すなわち身体虚弱児童として市内普通校より転校を命ぜられた児童 111名について，その主訴と当校で行なった精密身体検査結果とを比較して，身体虚弱児童の本質の一端を追及するとともに，2年間養護教育を行なった効果，すなわち元の在籍校へ帰校しえた児童について，その経過を述べる．

320　昨年1年間の保健室利用状況

（堺養護学校）伊井野喜重子　○真砂松子

本校は堺市立養護学校として，8才以上の市内在住身体虚弱児童並に精神薄弱児童を収容し，夫々一部二部の二群に分けて養護教育を行なっている．

6-177

これらの児童が保健室をどのように利用しているか，即ち外傷，頭痛，腹痛，痙攣等の事故件数を月別，一部，二部別に比較し，普通校のそれ等と比較検討した結果を述べる.

又主として担任教師，保護者等よりの要請により行なわれた学校健康相談の実態を述べ，これらの内，校医の指示により行なった対策の内，効果のあったと思われる2～3の症例についてのべる.

誌321　サラシ粉の溶解について　（第1報）

（金沢 泉中学校）徳久　和夫

従来，プール消毒におけるサラシ粉液の調整に際し，もっぱらその秤取すべきサラシ粉の計算量にのみとらわれ，それに続く水による溶解（実は分解）操作には全く無関心で，経験的に適当に行なわれているにすぎなかった．そのため，サラシ粉液注入時，期待した残留塩素の濃度が得られぬ事態がしばしば起った.

筆者は，この点に科学的究明を行ない，もってプール消毒への一つの指針とする目的で研究に着手し，ここに興味ある事実をえたので，発表する次第である.

1)　反復上澄液による回収可能塩素の測定

a)　サラシ粉100g に水を加えて500cc とし，振盪，分解，一夜放置後採取した上澄液中には全有効塩素量の36%が溶出されるに過ぎないが，同様に操作して第2上澄液まで採取すれば63%が，さらに第3上澄液まで使用すれば，82%の塩素を回収することができる．それでも18%の塩素の損失はまぬがれない.

b)　高度サラシ粉50g に水を加えて500ccとし同様に操作し，1時間放置後の結果を見ると，第1上澄液で66%，第2上澄液まで採出せば86%の塩素回収が可能であった．損失比は14%である.

2)　サラシ粉溶解濃度と加水分解度の関係

100cc のメスシリンダーに5g から20g までのサラシ粉を階段的に分解せしめ，その加水分解度を常法に従って測定した結果，1/200以下の稀薄溶液では加水分解はほとんど完全に行なわれ，有効塩素の 100%が上澄液中に溶出しているが，1/100，1/50，…と濃厚溶液になるに従いその水解度は低下し，とくに1/10以上ではほぼ加水分解度は80%前後になることが判明した.

以上二つの実験の結果より，サラシ粉を分解するには，常に10～15%の損失を考慮して秤取サラシ粉量を算出するとともに，分解槽の許す範囲で可能の稀薄溶液で操作を行ない，なおかつ，それに応じて2回ないし3回の反復分解を行なう必要があると考察する.